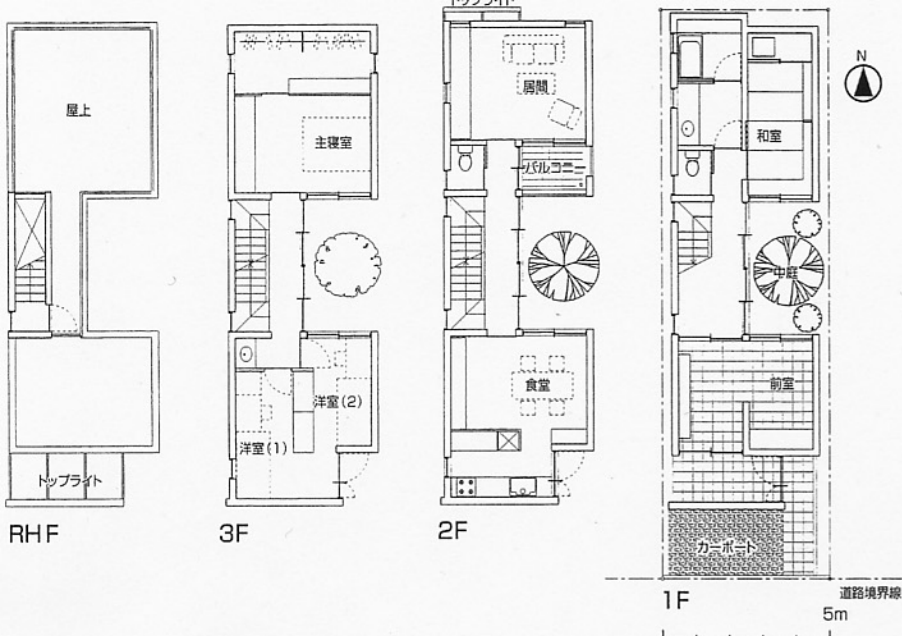


この街に住み続けたい  
**プラン提案**

1



DATA	
敷地面積: 85.00㎡	建築面積: 49.98㎡ (15.1坪)
延床面積: 144.48㎡ (43.7坪)	1階: 44.94㎡
	2階: 45.99㎡
	3階: 49.14㎡
	PH: 4.41m
敷地面積: 5×17m=85㎡ (25.7坪)	構造: RC造

- 外観……道路側の外壁は土色のレンガ積み、他の壁面はコンクリート打ち放し 街並みに優しくありながら凛とした表情を与え、夜は3階のトップライトやサイドの窓から白熱灯の光がレンガの壁を浮き立たせる
- プラン……玄関横の中庭に続く土間空間は接客スペースとなるプライベートとパブリックな空間をつなぐ前室の役割を果たす 屋上は友人とのビアパーティや子供たちの遊び場に… 中庭には、我が家の木を植えそれぞれの居室から眺めることができる 都市型住宅は、如何に心豊かな住空間を確保するかが課題である 中庭を設けることで内部空間に広がりを持たせ光・風・季節を感じることができる

PROFILE



暮らし方研究会顧問  
**新井 律子**  
(あらい のりこ)

1952年 ●大阪府生まれ。  
●大阪市立大学家政学部住居学科卒業  
●大成建設設計部を経て

1989年 ●新井律子建築設計事務所設立



**基本は家族仲良く**

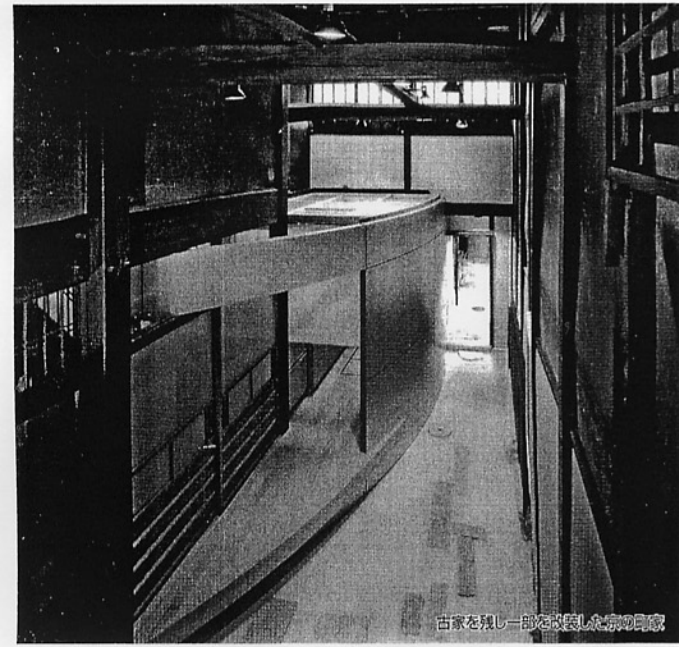
また、これからの町は、いろんな家族構成の人達が仲良く暮らしていきけるような街づくりが望まれます。新婚夫婦、高齢者夫婦、DINKS、子供二人の標準家族、独身者といった多様な家族構成の人たちが、それぞれ自分たちにふさわしい住まいを求めることになる、間取りも形も違ったものになるのは当然です。そんな時に

ことが大切です。  
例えば、二階の軒線をそろえようと、立面には影が付くようにする、あるいは素材や色を限定する、などといったことを決めておくのも、二つの方法でしよう。こういったことは、長年住み続けている人が多い町では比較的容易に実行することができるでしょう。

こそ、先述のようなルールが生きてくるわけです。お互いにそれぞれの住まい方を尊重しながら、自分自身の住まいづくりをするという姿勢があればルールも守りやすいし、街づくりにも貢献できるはずです。

京都のように古い町家が残っていたり、新しい三階建てに建て代わったりしているところが一番難しいわけですが、それぞれの家族にみあった適度な空間を考へることにより、その街並にあつた住まいを創出することが大切です。

また、京都のように長年住み続けている人が多い町では、季節の行事がいろいろあり、それに参加することによってコミュニティ意識も向上し、その地域の文化を享受することができるので、そういったことに対応できる住まいづくりも大切なことでしょう。



古家を残し一部を改装した新の同僚